

第137図 福成早里横穴墓玄室内出土  
須恵器(366)付着物のIRスペクトル

測光値(Measuring mode) : KT

分解能(Resolution) : 4.0cm<sup>-1</sup>

積算回数(No. of Scan) : 40回

ゲイン(Gain) : 自動

アボダイズ関数(Apodization) : Happ-genzel

測定範囲: 4600~400cm<sup>-1</sup>

測定方法: KBr錠剤法

## (2) 蛍光X線分析

蛍光X線分析装置(理学電気工業製: RIX1000)により、 $_{9}F$ ~ $_{92}U$ の範囲の元素定性分析を行った。以下に分析条件を記した。

### a) 装置

理学電機工業社製RIX1000(オーダー分析プログラム)

### b) 試料調製

試料をポリエチレン膜( $6\ \mu m$ )で挟み、スナップリングでポリエチレン容器(ケンブレックス製CatNo1540)上部に固定する。次に容器底部にマイクロポーラスフィルム( $5\ \mu m$ )を固定する。作成したポリエチレン容器試料を装置付属試料ホルダーにセットする。

プランクとしてポリエチレン膜( $6\ \mu m$ )から微小のZn、Fe、Crのピークが、また軽元素領域もSi、Caなどのピークが検出されるが試料からの蛍光X線の方が十分大きいので数十ppmオーダーまでの検出が可能である。

### c) 測定条件

作成した試料について以下の条件で測定した。

X線管; Cr (50kV~50mA) ダイアフラム; 20mmφ

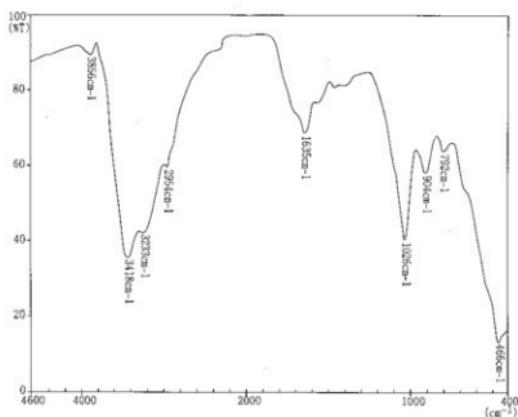
試料マスク; 30mmφ 分光結晶; LiF, PET, TAP, Ge

試料スピン; OFF 検出器; F-PC, SC

### ・須恵器壺蓋付着物(366)

#### (1) 結果

須恵器壺蓋付着物(366)の赤外線吸収スペクトルを第137図に示す。主な吸収帯は、3856、3383、3283、2932、1633、1387、1039、779、538、466cm<sup>-1</sup>である。各吸収帯から推定される官能基は次のとおりである。3856cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はN-H基の伸縮振動による吸収、3383cm<sup>-1</sup>付近の強い吸収帯は水分子による吸収、3283cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はC-H、O-H、N-H基の伸縮振動による吸収、2932cm<sup>-1</sup>付近の吸収帯はC-H基の伸縮振動による吸収、1633cm<sup>-1</sup>付近の強い吸収帯はC=C、C=O基の伸縮振動による吸収、1387cm<sup>-1</sup>の吸収帯はC-H基の変角振動による吸収、1039cm<sup>-1</sup>以下の吸収帯はC-H基の変角振動およびSi-OまたはAl-Oの伸縮振動による吸収であると考えられる。この中でSi-OあるいはAl-Oの吸収は、サンプリング時に混入した覆土土壤



第138図 福成早里横穴墓玄室内出土鉄刀（383）付着物のIRスペクトル

に由来するものと考えられる。

## （2）考察

須恵器壺蓋に付着していた物質は、上記したように黒褐色を呈し、有機質にみえるものであり、由来としては埋葬時の副葬品や人体に由来する可能性がある。今回の黒褐色付着物質の赤外線吸収スペクトルは、ヒエ、アワ、キビなどの生穀物のスペクトルパターン（今回と同一条件で測定）に類似していた。ヒエ・アワ・キビなどの標準スペクトルパターンと比較するとなだらかであり、微弱なピークが消失しているが、長時間土壤中にあつたために側鎖（官能基）の離脱などによって化学構造の変化が起きていると考えられる。したがって、付着物は、種類は特定できないものの穀物に由来する可能性がある。本須恵器壺蓋が土器枕として利用されたものであることから、当時の副葬品として穀物が納められた可能性があり、それに由来するのかもしれない。

### ・大刀付着物（383）

#### （1）結果

大刀付着物の赤外線吸収スペクトルを第138図に、元素定性結果を第139図に示す。赤外線吸収スペクトルによる主な吸収帯は、3856、3418、3233、2954、1635、1026、904、792、466cm⁻¹である。各吸収帯から推定される官能基は次のとおりである。3856cm⁻¹付近の吸収帯はN-H基の伸縮振動による吸収、3418cm⁻¹付近の強い吸収帯は水分子による吸収、3233cm⁻¹付近の吸収帯はN-H基の伸縮振動による吸収、2954cm⁻¹付近の吸収帯はC-H基の伸縮振動による吸収、1635cm⁻¹付近の吸収帯はC=C、C=O基の伸縮振動による吸収、1026cm⁻¹以下の吸収帯はC-H基の変角振動およびS i-OまたはA l-Oの伸縮振動による吸収であると考えられる。この中でS i-OあるいはA l-Oの吸収は、サンプリング時に混入した覆土土壤に由来するものと考えられる。

蛍光X線分析によって検出された無機元素は、軽元素領域ではケイ素（S i）、アルミニウム（A l）、カルシウム（C a）、マグネシウム（M g）、カリウム（K）、リン（P）、硫黄（S）、塩素（C l）の8元素、重元素領域では鉄（F e）、チタン（T i）、マンガン（M n）、クロム（C r）、バリウム（B a）の5元素である。これらの検出元素のうち、オーダー分析による半定量結果（ $\text{g F} \sim \text{g U}$  の範囲の元素定性による100%換算値）では特に高い含有率を示すものとしてケイ素（S i）、アルミニウム（A l）、鉄（F e）が確認される。赤外線吸収スペクトル結果から試料表面には覆土土壤が付着していることが明らかとなるため、ケイ素（S i）、アルミニウム（A l）、鉄（F e）の大部分が土壤の構成成分に由来するものと推察される。ただし、鉄（F e）に関して

鉄刀付着物の元素定性結果

検出元素	測定強度	含有率(%)	検出元素	測定強度	含有率(%)
Al	0.224	15.66	Ti	0.049	0.35
Si	0.482	37.81	Mn	0.082	0.14
Fe	2.610	36.22	Cr	0.061	0.38
Ca	1.340	3.71	S	0.036	0.28
Ma	0.031	0.19	Ci	0.029	0.25
K	0.758	2.02	Ba	0.076	1.72
P	0.027	0.79			

注) 含有率はPP法によるオーダー分析

第139図 鉄刀付着物の元素定性結果

は通常土壤中に含有される量としては高いことから、大刀の鏃も付着している可能性がある。その他検出された、元素は覆土土壤および鉄鏃に含有される元素である。

## (2) 考察

刀に付着する物質としては、樹皮、繊維、獸皮等が候補として挙げられる。蛍光X線分析によって検出された無機元素は、付着土壤および大刀に由来すると考えられる。このことは、付着物が有機物質で構成されている可能性を示唆する。赤外分光分析結果から試料の素材を推定すると、各スペクトルは炭化水素を骨格とし、アミノ基を側鎖として含む有機化合物と考えられる。また、試料のスペクトルは水分子の吸収に比べ全体的に弱いものの、C=O基の吸収が比較的弱いことから、芳香環（ベンゼン核等）を骨格として含む化合物（芳香族化合物）の可能性は低い。したがって、大刀付着物は、獸皮、樹皮、繊維等の有機物質に由来する可能性がある。しかし、今回の分析結果では、物質を特定することはできなかった。今後、由来が明らかな柄付着物などについても分析を行い、類例を蓄積して明らかにしたい。

## 引用文献

山田富貴子 「赤外線吸収スペクトル法」 「機器分析のてびき第1集』 p.1-18 化学同人 1986年

### 第3節 福成早里遺跡出土の須恵器蓋坏について

当遺跡出土の須恵器の年代は、概ね6世紀前半から8世紀後半までの間に収まるが、うち、出土量的に主体をなすのは、TK209（6世紀末葉～7世紀初葉）からTK46（7世紀中葉）にかけての時期のものである。陰田編年では、陰田5式～7式にかけて併行する時期である。この時期の蓋坏の特徴としては、天井部・底部の切り離し後のケズリ調整の粗雑化、簡略化がすみ、やがてナデ調整が主体となること、法量が小型化し、坏身の受け部の立ち上がりも矮小化すること、坏蓋の稜や口縁端部内面の段が鈍化し、凹線状を呈するなどの変化をみせながら、やがて消滅することなどが挙げられる。陰田7式期における金属器写しの器形（蓋と身の逆転）の出現に向かう途上で展開される、蓋坏の伝統的器形の退化現象といえよう。当節では、当遺跡で出土したこの時期の須恵器蓋坏についてその属性を分析し、その変遷の様相について検討する。

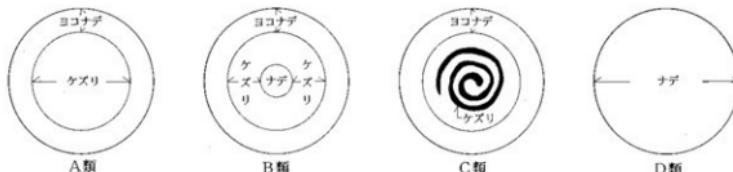
表1は、当遺跡出土の蓋坏を編年したものである。形式名には陰田編年を用いた。陰田5式段階が主体を占め、68個体の蓋坏が該当する。6式は7個体、7式は16個体を数える。これらのうちには、欠損するものも含まれ、全てについて属性分析が行える訳ではない。よって属性分析を省略しているものもある。表2は、属性分析についてまとめたものである。抽出した属性としては、①天井部・底部の切り離し後の調整の在り方、②坏蓋の天井部と体部との境にある稜の形態、③坏蓋口縁端部内面の形態の3点である。

①については、A類からD類に分類した（第140図・写真図版36）。A類は、粗雑化しながらも中心までヘラケズリを行っているもの（33個体）、B類は、中心を残して周囲をヘラケズリするもの（13個体）、C類は、螺旋状の大ざっぱなヘラケズリを行うものである（3個体）。胎土の乾燥がかなり進んだ状態で施されているものと思われ、ケズリの軌跡が黒光りする。D類はヘラケズリを施さないもの（14個体）で、全面ナデで仕上げるか、一部のみナデで終わらにしてしまう。A類は陰田5式の主体をなすもので、6式までみられる。B、C類は5式のみに、D類は7式のみにみられる。6式段階までA類が認められることから、ヘラケズリの簡略化は程度の差の問題であって、時期差を示すものではないことが窺える。一方、7式段階ではすべてがD類となり、ヘラケズリの中止—全面ナデ調整という差異は、時期差と捉えることが可能であろう。

②についても、A～D類に分類した。A類はシャープな稜を有するもの（3個体）、B類は稜が鈍化したもの（13個体）、C類は凹線によって稜となすもの（13個体）、D類は稜の消失するもの（12個体）である。稜の鈍化は5式段階にみられ、6式には至らない。凹線化は5式段階からみられ、6式まで続く。稜の消失は6式段階から始まり、7式以降蓋坏は無稜となる。

③についても、A～D類に分類したが、A類に該当する個体はみられなかった。A類は明瞭な段をもつもの（0個体）、B類は不明瞭な段をもつもの（11個体）、C類は段の位置が上がって凹線状となるもの（12個体）、D類は段をもたないもの（17個体）である。凹線状となるものは5式段階にのみみられ、段の不明稜なものや無段のものは、5～7式を通じて認められる。すなわちC類の存在は、段の退化傾向を示すB類の延長線上にあるのではなく、A類からB類とC類に分化した結果によるものと思われる。

以上の結果からも窺えるように、蓋坏の伝統的器形の退化が進む中で、やみくもに蓋坏製作の粗雑化、簡略化が進められた訳ではないようである。ヘラケズリC類の採用、稜、段の凹線化など、製作効率向上、大量生産化に向けての工夫がなされたようである。今後この結果について、さらに普遍性を追求していく必要があるだろう。



第140図 須恵器・蓋坏の天井部切り離し後の調整による分類

表1 福成早里遺跡出土須恵器・蓋坏の編年（数字は遺物番号、Fは坏蓋、Mは坏身を表す）

造構名		陰田5式 (TK209併行)	6式(TK217古)	7式 (TK217新～TK46併行)	
A2群	S I 3			24F	
1群	S I 4	36M 37M 38F			
	S S 19	53F 54F 55M 56M 59M	58F		
	S S 20	104M 105M 106M			
	S I 6	75F 78F 80M 81M 82M	73F 74F 79F		
	S I 8			46F	
	S I 7			47F	
2群	S I 12	144M 145M 151M 152M			
	S S 32	141F	142F		
	S S 29	202F 203M 211M 212M 213M 216M			
	S S 25	166M 167M			
	S S 31			165F	
C群	S S 36			235M 240F 241F 242F 243M	
早里14号墳	261F 262F 263F 264F 265F 266F 267M 268M 269M 270M 271M 272M 273M 274M 275M				
福成早里横穴墓	337F 338F 339F 340F 341F 342F 343F 344M 345M 346M 347M 348M 356F 357F 358F 359M 360M 361M 362M 363F 364F 365M 366F 367M				

表2 福成早里遺跡出土須恵器・蓋坏の属性

造構名		天井部・底部の調整			坏蓋の稜線			坏蓋口縁端部内面の段		
		陰田5式	6式	7式	陰田5式	6式	7式	陰田5式	6式	7式
1群	S I 3					C			B	
	S I 4	AA			C			B		
	S S 19	AAA			BB	C		C	B	
	S S 20	ABB								
	S I 6	AA			AC	DD		CC	BDD	
	S I 8		A			C			D	
2群	S I 7			D			D			B
	S I 12	B								
	S S 32				A	C		B		
	S S 29	A		DDD	C		DD	B		DD
	S S 25						D			B
	S S 31			DDDD			DDD			DDD
C群	S S 36			D			D			
早里14号墳	AAAAAAA BBBB		DD	ABBCCC		D	CCCCC		D	
福成早里横穴墓	AAAAAAA AAAAAAAB BBBBCCCC		DD	BBBBBBB BBCCCC		D	BCCCC DDDDDD		D	

#### 第4節 福成早里遺跡の土葬墓と火葬墓

今回の調査では、土葬墓14基、火葬墓13基が検出された。土葬墓、火葬墓のいずれについても、鉄釘の出土は一切みられず、土層断面からも木製棺など内部主体の痕跡が窺えるものはない。以下、人骨と遺物の出土状況から、遺体の埋葬状況について検討し、当遺跡における古墓埋葬の具体相に迫りたい。

S X 7（第94図）においては、人骨が壙底中央から墓域東隅にかけて出土し、壙底からのレベル差は3~5.5cmである。土師質土器の皿1点（第94図384）が、壙底西隅に天地を逆にした状態で出土し、壙底とのレベル差は1~4cmである。人骨とはほぼ同レベルであるが、やや傾いた状態である。すなわち皿は、遺体安置面に副葬品として伏せ置かれていたものであり、のちに底板の腐朽によって傾いたものと推察される。底板の存在は指摘したが、側板、天井板の有無については判断できない。S X 9（第95図）においては、人骨が壙底中央から1点と壙底北側壁寄りから1点が出土し、壙底中央からは銅鏡6枚（第96図385-1~6）が半径9cmの範囲から集中出土している。この範囲内に人骨の出土も含まれている。人骨と壙底からのレベル差は0~1cm、銅鏡と壙底とのレベル差は0~4cmであり、底板のない直葬と考える。S X 18（第104図）は、人骨と壙底とのレベル差は7~10cmである。銅鏡は骨に囲まれるような位置から出土しており、半径8cmの範囲に5枚（第105図392-1~5）が集中して出土している。壙底とのレベル差は3~10cmである。人骨、遺物の出土レベルから推して、この土葬墓も底板を敷くものであった可能性がある。S X 16では、埋土中から五輪塔の火輪が出土した。火輪は笠の天地を逆にしており、壙底とのレベル差は15cmである。火輪の下位から銅鏡6枚（第103図391-1~6）がほぼ固まって出土した。壙底のほぼ中央にあたり、壙底とのレベル差は2~6cmと斜めの状態での出土である。よって、火輪と銅鏡とのレベル差は9~13cmとなる。銅鏡の一部には繊維が付着しており、紐か袋の残欠と思われる。人骨を伴わないため、銅鏡だけでは底板の有無を判断できない。

さて、銅鏡の出土状況に着目してみたい。銅鏡を出土した土葬墓はS X 9、16、18、19の4基である。いずれも壙底から0~10cmのレベルで傾きを示しながら出土し、散らばることなくほぼ1ヶ所にまとまっている。S X 16出土の銅鏡からは、本来銅鏡の穴に紐を通していか、袋に入っていたかを窺わせる布の付着がみられ、六道鏡がまとめられた状態で副葬されたことが推察された。出土位置は、壙底ほぼ中央か、人骨が出土する辺りであり、遺体と密接した状態であることが推察される。S X 18での出土状況からみれば、銅鏡が人骨に囲まれた位置から出土しており、このことから六道鏡は、首から提げたか、懷に入れて死者に持たせたものであろう。とすればS X 16においては、火輪と銅鏡とのレベル差から、遺体の上に火輪を乗せたものと推察される。

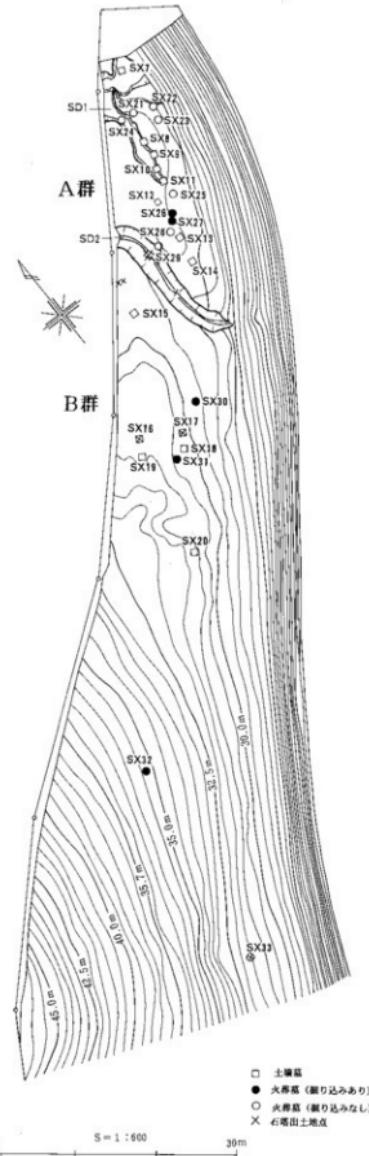
S X 20（第108図）では、土師質土器の壺1と小皿1（第108図）が出土した。いずれも天地を逆にしており、壙底からのレベル差は24~29cmを測る。両者とも⑤層からの出土で、墓壙内の中位のレベルに相当する。墓壙上面からの混入遺物ではなく、埋葬の中途で供獻されたものと思われる。木製棺の存在は確認できないが、棺の天井板上に伏せて置いたか、葬送儀礼に用いた道具と一緒に埋積してしまったかのいずれかが想定される。両土器には5cmほどのレベル差があり、また土器の出土した⑤層が断面弓なりを呈していることを陥没の痕跡と捉えるならば、あるいは木製棺の存在は推測可能かもしれない。

火葬骨の出土状況については、2つのパターンがみられた。1つは、掘り込みなどの下部構造を伴わず、火葬骨が一定の範囲内に集中している場合で、これを火葬A（8基、S X 21~25、28、29、33）とする。他方は、掘り込みを伴い、そのなかに火葬骨を納めている場合で、これを火葬B（5基、S X 26、27、30~32）とする。しかしいずれの場合においても、周辺が高溫焼成によって焼土化する、ないしは多量の炭化物が出土する等の火葬地理葬を思わせる所見は得られていない。骨の出土状況も、解剖学的な原位置を保っておらず、火葬Bは埋土と混在する。他の火葬地から持ち運ばれて来たものであることは確実である。その際、藏骨器として土器が使用された様子は見受けられない。袋、木製容器、竹筒なども想定されるが、藏骨容器が朽ちて骨が散逸したにしては骨の範囲が広く、土とよく混ざるものもある。おそらく、何らかの容器に入れて持つて来るものの、墓地内でその中身である火葬骨を遺棄してしまうのである。今日的見地から言えば、死者をないがしろにする行為のよ

うにもとれるが、墓地まで遺骨を運び、そこで骨を振り撒くことが追善たりえたのかもしれない。そうしたなかで、火葬Bはやや丁寧な扱いとも言えよう。掘り込みを持つ火葬B中のSX30（第110図）は、火葬骨に混じって炭化した多量の種実が検出された。シノキ属と同定され（写真団版15）、食用となる種実であり、副葬の可能性もある。米子市陰田第6遺跡においては、土葬墓SK-20から同様な種実の検出例がある（註）。この場合、本来袋に入れて供献していたものが、袋の腐食によって散らばったものと推察されている。SX30では、種実の入った袋とともに茶毬に付されたものと推察され、その後火葬骨に混じて持ち込まれたものと思われる。

各墓の時期については、出土遺物が少なく、僅かな土器と銅鏡に頼らざるを得ない。SX7の土師質土器の皿（384）は、手捏ね成形で外面ユビオサエ、内面ヨコナデで、橙灰褐色を呈する。器高2cmに対し、口径12cmと低平な器形である。16世紀代に比定される。SX10の埋土中出土の土師質土器の小皿（第99図386）は、ロクロ成形で内面ヨコナデ、底部に板目が認められる。色調は橙灰褐色。13世紀代か。SX20の土師質土器の壺（394）と皿（395）は、いずれもロクロ成形で、内外面ヨコナデ、底部は静止糸切りで、色調は橙褐色である。口縁端部が面取りされ、壺と皿とともに共通する特徴となっている。13世紀代に比定される。SX26出土の土師質土器の皿396（第109図）は、底部糸切りで、橙褐色を呈する。時期は不明。SX9出土の銅鏡は、最新の初鋤年代を示すものが紹聖元寶（385-4）で、1094年である。SX16においては、最新が元豊通寶（391-12）で1078年である。SX18では元祐通寶（392-3, 5）で1086年、SX19では大觀通寶で1107年である。銅鏡は概ね北宋鏡で、初鋤年は10~12世紀代である。いわゆる六道鏡の副葬は、室町時代後半期に成立したとされ、15世紀後半以降にあたる土器を出土したSX7は、銅鏡を副葬した墓と同時期である可能性が考えられる。よって当遺跡の土葬墓は、13世紀代と16世紀代の最低2時期に区分され、断続的に造墓されていたものと思われる。しかし、土葬墓と火葬墓との時期差については明らかにできなかった。

註「第3章 陰田第6遺跡の調査」「陰田遺跡群」



第141図 土葬墓・火葬墓配置

## 第6章 総括

今回の調査で得られた成果を以下に概観し、まとめとしたい。

縄文時代に比定される遺構は、確認できなかった。従来縄文期とされてきた落とし穴状土坑についても、時期を推定する所見が得られず、時期不明とした。遺物は、晩期末業の刻み目突帯文土器が、夾雜物を含む包含層から出土した。深鉢に混じって、1点肩部の張る器形の胴部片が出土し、壺形となる可能性がある。

弥生時代に比定される遺構は、テラス状遺構のSS 11、12、貯蔵穴のSK 11、12、溝状遺構のSD 5である。いずれもA区からの検出である。SS 12、SK 11、SD 5は、前期末様～中期初頭の土器を伴い、SS 12からは石錐が出土した。SD 5はSK 11に連結するものであり、貯蔵穴へ行き来するための道と推察される。SK 12は遺物を出土していないが、形態的特徴から貯蔵穴と判断した。SS 11からは、後期後半（青木Ⅲ古）の土器が出土している。そのほか、遺構外から後期前半の土器（青木Ⅱ）、後期後半の土器（青木Ⅲ新）が出土している。

古墳時代前期の遺構は、確認できなかった。遺物は、遺構外から青木のV、VI期～VII期の土器が出土している。

古墳時代中期に比定される遺構は、テラス状遺構のSS 26、27（B区）、木棺墓SX 4（A区）で、5世紀後半に比定される。SX 4は、1個体の高坏（313）を割って左右に配置し、枕としたものである。遺構外からは青木Ⅳ期（5世紀前半）に比定される土器も出土している。

古墳時代後期は、遺跡の主体を占める時期である。A区では古墳、横穴墓が築造され、A、B区にかけては竪穴住居やテラス状遺構が築かれる。この期の礎石は早里15、16号墳で、6世紀中葉（MT 15～TK 10併行）に比定される。15号墳は川西編年のV期にあたる円筒埴輪を伴い、土壤墓2基を内部主体とする円墳である。16号墳は円弧を描く周溝のみを検出したが、上層に早里14号墳が築かれていることから、築造を途中放棄した可能性がある。14号墳は、6世紀末葉～7世紀初頭（TK 209併行期）に築造され、7世紀中葉（陰田7式期併行）まで使用された円墳であるが、主体部である横穴式石室は大幅に攢乱されていた。SX 1は、14号、15号両墳のいずれかに伴う周溝内埋葬で、花谷編年の第2群（6世紀中頃～後半）に位置付けられる瓢形素環鏡板をもつ簪を副葬する土壤墓である。福成早里横穴墓は、後背周溝を有し、玄室は妻入の形態を呈する。前部には意図的な土器の配置が窺われ、追葬の最終儀礼による所作と推察された。これら土器の中に、アカメガシワの葉の葉脈を押圧した須恵器の高坏がみられ、独特の供獻スタイルをもつことを垣間見せた。閉塞は1枚石で塞がれ、隙間に須恵器の蓋坏が詰め込まれていた。玄室内には2体の埋葬が窺われ、TK 209段階（6世紀末葉～7世紀初頭）の蓋坏と陰田7式段階（7世紀中葉）の蓋坏がそれぞれ枕とされていた。

古墳時代後期であることが判明している竪穴住居跡は6基、テラス状遺構は8基である。急峻な丘陵斜面地という立地条件に適応させた構造をもつ。1棟の竪穴住居を中心施設とし、1～2ヶ所のテラス上に掘立柱建物を建ててこれに付随させている。この単位構成は6世紀末葉から7世紀中葉まで普遍性を示すが、A、B区においては以後集落を構成しなくなる。D区において、7世紀中葉～後葉にかけてのテラス状遺構が検出され、集落地の移動が窺われるが、その系譜的継続は判断し得ない。なお、SS 20を切って掘り込まれた土坑SK 20からは、一括りの高い土器群が出土し、7世紀前半に比定された。

奈良時代のテラス状遺構10基がA区で検出されている。奈良時代に至って竪穴住居は消失し、代わって大型のテラス状遺構が中心施設としての機能を果たすようになる。小型のテラスを付随させるなど、最小単位の構成は前代を踏襲するものであるが、製塙土器や丹塗り土師器の出土など、集落の内的変化が窺われる。

中世においては、B区においてテラス状遺構SS 35や土坑SK 23といった13世紀代の集落関連遺構が検出されているが、それ以上の広がりをみせない。一方A区においては、土葬墓14基、火葬墓13基が検出され、13世紀から16世紀にかけて断続的に墓地として使用されていたことが明かとなった。墓地を東西に分断するSD 2は道と思われるが、溝底から五輪塔が出土しており、墓地以降の所産と判断される。SD 1は、位置の直列する土葬墓SX 7～11、13、14に並行して南北に伸びるもので、墓道として使用されたものと思われる。

## 遺構一覧表

堅穴住居跡・テラス状遺構				
遺構名	標高(m)	長さ-幅(m)	検出遺構	出土遺物
A-1群				
S S 1	39~40	(4.1)-2.2	溝1、ピット1	鉄製品、須恵器壺
S S 2	39~40	2.5-1.3		
S S 3	38~38.5	5.0-2.0	溝1、ピット2	須恵器壺、土師器甕
S S 4-1	36~37	(10.2)-3.0	溝1、ピット群	製塙土器、土師器甕
S S 4-2	36~37	(7.0)-2.9	溝1、ピット群	製塙土器、土師器甕
S S 5	36~37	8.5-3.1	溝1、ピット3	土師器皿、須恵器甕
S S 6	35.5~36	4.7-1.5		
S S 7	33.5~34	6.5-2.3	溝2、ピット群	製塙土器、土師器甕・皿
S S 8	33.5~34	4.0-1.45	溝1	
S S 9	33.5~35.5	6.95-6.0	溝1	須恵器壺
S S 10	34~35	3.1-1.25		
S S 11	30.5~31.5	6.0-2.7	溝2?、ピット1	弥生土器甕
S S 12	30.5~31.5	3.75-2.05	溝1、ピット2	弥生土器甕・底部、石錐
A-2群				
S I 1-1	30.5~31.5	(2.6-5.4)	溝1、ピット2	
S I 1-2	30.5~31.5	(2.6-3.7)	ピット2	
S I 2-1	31~32	(4.9-4.7)	溝1、ピット2	
S I 2-2	31~32	(4.9-3.5)	溝1、ピット4	
S I 3-1	37~38	(5.0)-(3.5)	溝1、ピット7	須恵器壺蓋・高壺、土師器甕・甕
S I 3-2	37~38	(3.8)-(1.2)	溝1、ピット3	
S I 3-3	37~38	6.7-(5.0)	溝1、ピット5	
S S 13	30~30.5	6.2-1.2		
B-1群				
S I 4	33~35	8.75-9.2	溝1、ピット群	須恵器壺身・壺蓋・平瓶・甕 土師器甕
S I 5	34.5~35	4.6-(0.6)	溝1、ピット4	土師器甕
S I 6	21.5~22	5.5-(2.0)	溝1、ピット群	須恵器壺蓋・壺身・高壺・直口甕 支脚、土師器甕・甕

遺構名	標高(m)	長さ一幅(m)	検出遺構	出土遺物
S I 7	28~31	4.5~3.7	溝1、ピット6	
S I 8	28~31	7.3~(2.3)	溝1、ピット6	須恵器壺蓋
S I 9	28~31	4.6~(3.3)	溝1、ピット5	
S I 10	28~31	4.4~(2.0)	溝1、ピット3	
S I 11-1	28~31	5.5~(2.3)	溝1、ピット4	須恵器高壺、土師器壺
S I 11-2	28~31	5.5~(2.6)	溝1 ピット1	土師器瓶、支脚、磨石
S S 14	33.5~34.5	(3.5)~2.6	溝1、ピット3	
S S 15	33~33.5	(3.4~1.2)	溝1、ピット3?	
S S 16	28~29	4.2~1.25	溝2	
S S 17	28~29	3.55~1.25		
S S 18	26.5~28	8.15~2.1	ピット10	須恵器高壺・脚台・壺、土師器瓶 竈、鉄製品、土製品
S S 19	25.5~26.5	8.2~1.7	溝2、ピット9	須恵器壺蓋・壺身・壺、竈、土師器瓶?
S S 20	21.5~22	6.1~1.5	溝1	須恵器壺身・高壺・壺・壺、土師器壺・瓶、支脚
S S 21	32~33	(11.5)~1.7	溝2、ピット7	須恵器短頸壺・壺蓋・壺身・高壺 竈、土師器瓶
S S 22	31~32.5	(4.05)~1.8	溝2、ピット2	
B-2群				
S I 12-1	21.5	7.3~(4.2)	溝2、ピット群	須恵器壺身・壺蓋・高壺・壺・ 土師器壺・瓶
S I 12-2	21.5	3.7~(2.2)	溝2、ピット群	
S S 23	25.5~26.5	13.7~3.35	ピット3	須恵器壺・壺、土師器瓶
S S 24	25	2.8~0.9	ピット1	土師器瓶?
S S 25	23.5~25	7.65~4.1	ピット8	須恵器壺蓋・壺身・壺・鉢(壺?)、 土師器高壺・瓶・椀
S S 26	24.5	4.2~(2.0)	溝1	土師器小型丸底壺・壺・鉢・高壺 砥石・須恵器壺身・壺蓋・竈
S S 27	24.5	4.9~0.95	溝2	土師器壺・壺・高壺・瓶?
S S 28	24.5	3.8~0.55		
S S 29	22~23.5	10.4~3.0	溝2、ピット群	須恵器壺蓋・壺身・高壺・壺、 土師器壺・椀・鉢・竈・支脚
S S 30	22~23.5	7.6~1.9	ピット群	
S S 31	22.5~23.5	8.1~2.0	溝1	土師器壺・手捏ね土器・支脚、竈 須恵器壺蓋・壺身・壺
S S 32	21.5	3.7~2.5	溝2	須恵器壺蓋

遺構名	標高(m)	長さ-幅(m)	検出遺構	出土遺物
S S 33	22.5	2.5-1.5	溝3?、ピット群	土師器甕
S S 34	23	3.9-0.65	溝1、ピット1	
S S 35	22.5~23	5.6-2.2	溝1、ピット6	土師質土器皿・坏
C群				
S S 36	39~39.5	6.6-2.2	溝2、ピット8	須恵器坏身・壺
S S 37	38.5~40	(1.7)-2.2	ピット1	土師器甕
S S 38	44	(7.8-1.0)		土師器甕

古 墳					
遺構名	墳丘形状規模	埋葬施設・規模	主軸方向	出土遺物	備考
早里14号墳 (横穴式石室)	円墳・径12.6m	全長6.5 玄室3.3×1.7 羨道部3.2×1.0	N-44° -W	須恵器蓋坏・提瓶 土師器坏・直口壺	墳丘・主体部は破壊されている
早里15号墳	円墳・径14.5m	土壤墓or木棺墓 主体部1 1.5×0.65-0.3 主体部2 1.6×0.85-0.4	N-72° -E N-65° -E	円筒埴輪	墳丘・主体部は削平されている
早里16号墳	円墳?	不明	不明	須恵器坏身・壺 土師器高坏・坏	墳丘・主体部遺存せず

土 壤 墓					
遺構名	平面形態	規 模(cm)	主 軸 方 向	出土遺物	備 考
S X 1	梢円形	175×93-41	N-11° -W	馬具	
S X 2	隅丸長方形	102×43-30	N-68° -W	なし	
S X 3	隅丸長方形	177×54-24	N-35° -E	なし	

木 棺 墓					
遺構名	平面形態	規 模 (cm)		主軸方向	出土遺物
S X 4	長方形	墓壙	144×51-26	N-11° - E	土師器高坏
		木棺	104×40-20		土器枕

石 蓋 土 壙 墓					
遺構名	平面形態	規 模 (cm)	主軸方向	出土遺物	備考
S X 5	不整形(墓壙)	199×75-25	N-25° - E		

テ ラ ス 状 埋 葯 施 設					
遺構名	平面形態	長さ-幅(m)	主軸方向	出土遺物	備考
S X 6	隅丸長方形	6.16-3.08	N-55° - W		

横 穴 墓				
遺構名	長さ×幅-高さ(m)	主軸方向	出 土 遺 物	備 考
福成早里横穴墓			須恵器坏身・坏蓋・直口壺 鉄鎌、刀子、鉄刀、耳環、 ガラス小玉、馬具、人骨	玄室内に屍床 の台?
玄室	2.4×2.4- (0.85)	N-78° - W	須恵器坏身・坏蓋	
狹道部	1.2×0.7- (0.75)	N-78° - W	須恵器坏身・坏蓋	
前庭部	長さ5.8m	N-66° - W	須恵器坏身・坏蓋・高坏・横 瓶・甕・壺・提瓶・土師器鉢 鉢形土器・高坏・馬具・鉄製品	
後背墳丘			須恵器甕・壺	

土 葬 墓					
遺構名	平面形態	長辺×短辺－深度 (cm)	主軸方向	出 土 遺 物	備 考
S X 7	隅丸長方形	122×100-60	N-40° - E	土師質土器皿、人骨	
S X 8	隅丸長方形	115×83-40	N-54° - W		
S X 9	隅丸長方形	155×112-51	N-28° - E	銅鏡6枚、人骨	
S X 10	隅丸長方形	104×59-36	N-36° - E	土師質土器皿	
S X 11	楕円形	63×48-41	N-17° - E		
S X 12	楕円形	65×48-41	N-9° - E		
S X 13	不整形	114×65-51	N-70° - E		
S X 14	円形	92×73-40			
S X 15	円形	118×109-90			
S X 16	長方形	122×97-63	N-40° - W	銅錢、火輪	
S X 17	楕円形	127×78-36	N-65° - E	地輪、水輪2	
S X 18	?	? × ? - 50		銅鏡5枚、人骨	
S X 19	?	? × ? - 33		銅鏡4枚	
S X 20	隅丸長方形	105×67-55	N-21° - E	土師質土器皿	

火 葬 墓					
遺構名	平面形態	長辺×短辺－深度 (cm)	主軸方向	出 土 遺 物	備 考
S X 21		80×50		火葬骨	
S X 22		60×55		タ	
S X 23		60×30		タ	
S X 24		径45		タ	
S X 25		150×30		タ	
S X 26	長方形	88×65-27	N-44° - W	土師質土器皿、火葬骨	掘り込みあり
S X 27	不整形	140×62-22		火葬骨	掘り込みあり
S X 28		80×30		火葬骨	
S X 29		60×60		タ	
S X 30	楕円形	132×91-16		タ	掘り込みあり
S X 31	楕円形	109×82-20	N-18° - W	土師質土器皿、火葬骨	掘り込みあり
S X 32	不整形	172×89-15	N-29° - E	タ	掘り込みあり
S X 33		76×72		空風輪、火葬骨	

落し穴状土坑				
遺構名	平面形態	長辺×短辺－深度(cm)	底面のピット径－深さ(cm)	備考
SK1	円形	58×54-118	有り 14-11	
SK2	円形	60×45-108	なし	
SK3	円形	87×85-80	有り 13-10	
SK4	円形	85×72-94	有り 18-30	
SK5	円形	67×55-26	有り (18-12)	
SK6	楕円形	86×66-46	有り 18-34	
SK7	隅丸方形	78×65-24	有り 19-24	
SK8	円形	84×79-120	有り 11-23	
SK9	隅丸方形	81×74-70	有り 13-32	
SK10	隅丸方形	106×67-134	有り 18-27	

貯藏穴				
遺構名	平面形態	長辺×短辺－深度(cm)	出土遺物	備考
SK11	円形	185×130-117	弥生土器壺・底部	
SK12	円形	137×(133)-43		

その他の土坑				
遺構名	平面形態	長辺×短辺－深度(cm)	出土遺物	備考
SK13	円形	90×82-32	須恵器直口壺?	焼土面あり
SK14	楕円形	86×63-17		焼土面あり
SK15	隅丸方形?	70×(43)-25		焼土面あり
SK16	楕円形	151×80-34		
SK17	円形	50×47-34		
SK18	?	68×(42)-43	土師器甕	
SK19	?	83×(32)-50		
SK20	楕円形	(102)×78-62	土師器甕・須恵器高环ほか	
SK21	?	71×(32)-13		
SK22	長方形	88×50-31		
SK23	円形	113×107-40		
SK24	楕円形	(146)×125-20		

溝 状 遺 構			
遺構名	長さ-幅-深度 (m)	出 土 遺 物	備考
S D 1	(12) -0.5~2.2-0.2~0.3 + 5.1-1.8~5.3-0.5		
S D 2	(19) - 3 ~1.8 -1.3	火輪、水輪、空風輪	
S D 3	(5.8) -1.5-0.5	土師器甕	
S D 4	(3.4) -0.7-0.5	弥生土器甕・底部	
S D 5	3.0-0.5-0.2		S K11に伴う溝
S D 6	3.0-0.5-0.2		B-1群 S S 16~19の一部?

註 ( )付きの数値は、遺存長または検出長を示す。

竪穴住居跡・テラス状遺構の規模（長さ-幅）は、最大値を示す。

# 報告書抄録

ふりがな	ふくなりはやさしいせき							
書名	福成早里遺跡							
副書名	一般県道福成戸上米子線地方特定道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書							
シリーズ番号	57							
編著者名	北浦弘人・鬼頭紀子・岡野雅則・杉田千津子							
編集機関	財団法人 鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター							
所在地	〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 TEL 0857-27-6711							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東径	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡名	所在地	町村	遺跡番号	° ° °	° ° °			
ふくじのほりと 福成早里	鳥取県西伯郡		625	35°22'37"	133°20'53"	19970401		道路（一般県道福成戸上米子線地方特定道路）整備に伴う事前調査
ひやまと 早里14号墳	西伯町大字福成	31381	626	35°22'41"	133°20'56"	~	6,538	
ひやまと 早里15号墳	大字早里、早里山、		627	タ	タ	19971130		
ひやまと 早里16号墳	荒神山、		628	タ	タ			
ふくじのほりとうり 福成早里横穴墓	大字境 内海道西		629	35°22'39"	133°20'54"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
福成早里	集落跡 その他の墓	縄文～奈良、中世	豊穴住居跡12 テラス状遺構38 土坑14 土壤墓3 木棺墓1 石蓋土壤墓1 溝6 落とし穴状土坑10 土葬墓14 火葬墓13		縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器 手捏ね土器、支脚、窓、製塙土器、 土師質土器、陶磁器、石鏡、剥片石器 打製石斧、砥石、磨石、敲石、五輪塔 鉄斧、銅錢、人骨			
早里14号墳 早里15号墳 早里16号墳 福成早里横穴墓	墳墓	古墳	古墳3 横穴墓1		土師器、須恵器、円筒埴輪、 鐵鏡、鐵刀子、鐵刀、鐵製穂摘具、 馬具、耳環、ガラス小玉			葉脈圧痕のある須恵器 高坏

# 図版

図版 1



調査地遠景  
(東から)



調査地全景・調査前  
(南から)



調査地全景・A、B区  
(東から)

図版 2



C-5区（南東から）



C-1区遺物出土状況（南西から）



SS1（南東から）



SS2（北から）



SS3（北から）



SS4（北から）

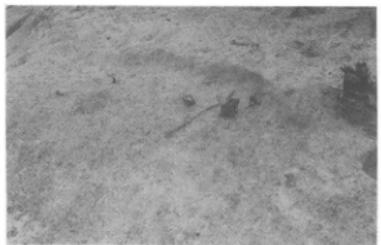


SS5遺物出土状況（北東から）

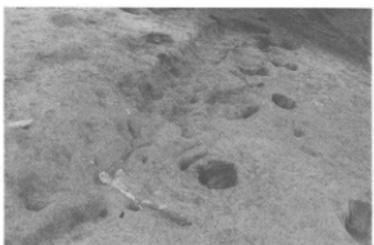


SS5（北西から）

図版 3



SS 6 (北東から)



SS 7 (南から)



SS 8 (北東から)



SS 9 (南西から)



A-1群 (SS 1~11・南東から)



SS 9 (東から)



SS 10, 11 (北から)

図版 4



S I 1、2 (間は横穴墓・南東から)



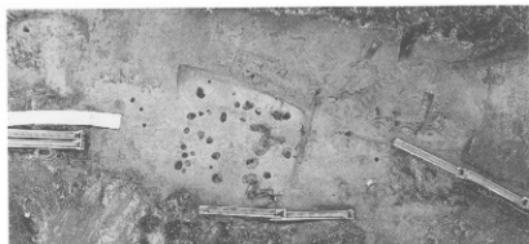
S I 3 (北西から)



B区 (南東から)



B区 (南東から)



S I 4、SS 14、15 (南東から)



S I 4 (南西から)



S I 4 (北東から)

図版5



S I 5 遺物 (45) 出土状況 (北東から)



S I 5 (北東から)



S S 18、19土層断面 (南西から)



S S 19遺物出土状況 (南から)



B - 1群北半 (S S 16~20、S I 6・北から)



B - 1群北半  
(S S 16~20、S I 6、7・南東から)



S S 20、S I 6 (西から)



S S 20、S I 6 (南西から)

図版 6



B-1群南半 (S S21、22、S I 7~11・南東から)



S I 7、9 (北西から)



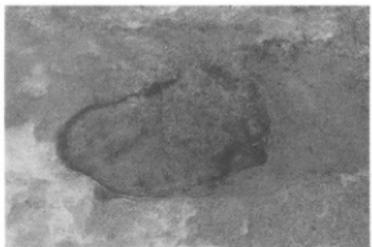
S I 7~9 (南西から)



S I 8 遺物 (46) 出土状況 (南から)



S I 10 (北西から)



S I 11・P 1 (北東から)



S I 11 (北西から)

図版 7



B-2群（南東から）



B-2群（北から）



S S 23（北から）



S S 27（西から）



S S 25（南西から）



S S 29、30（南西から）

図版 8



S S 31 (南から)



S S 32, S I 12 (北西から)



S S 33~35 (北西から)



S S 29~35, S I 12 (北東から)



D区全景・調査前 (南東から)



S S 36, 37 (北から)



S S 36遺物 (256) 出土状況 (北東から)



S S 36, 37 (南西から)



早里14~16号墳、SD 2 (南東から)



早里14号墳 (南東から)



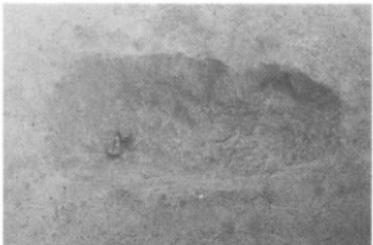
早里15号墳 (南東から)



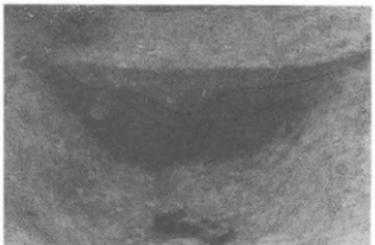
早里14号墳・横穴式石室墓塚 (南東から)



早里15号墳・主体部1、2 (南西から)

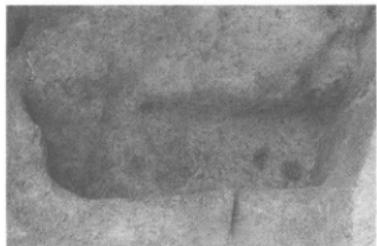


S X 1 (南西から)



S X 1 土層断面、遺物 (318) 出土状況 (北西から)

図版10



S X 2 (北東から)



S X 5 石蓋検出状況 (南西から)



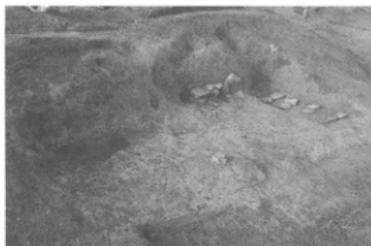
S X 3 (北西から)



S X 5 完掘状況 (南西から)



S X 4 (西から)



S X 6 (南から)



S X 6 (北東から)



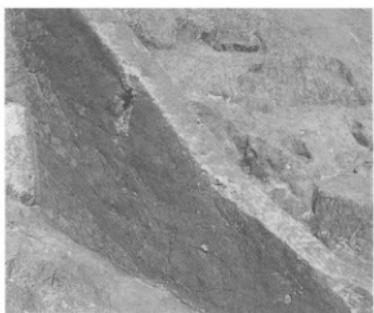
S X 6 (南東から)



福成早里横穴墓（南東から）



横穴墓前部遺物出土状況（南東から）



横穴墓前部土層断面（南から）



横穴墓閉塞石（南東から）

図版12



横穴墓前部遺物(337～342, 344～350, 353)  
出土状況(北東から)



横穴墓前庭部遺物(343, 355)出土状況(北東から)



横穴墓閉塞石(南東から)



横穴墓羨道部土層断面(南から)



横穴墓羨道部遺物(363～365)出土状況(南東から)



横穴墓羨道部遺物(363～365)出土状況(南東から)



横穴墓羨門部(南東から)



横穴墓玄室内遺物出土状況(南東から)

図版13



横穴墓玄室内遺物出土状況（南東から）



横穴墓玄室内遺物出土状況（北西から）

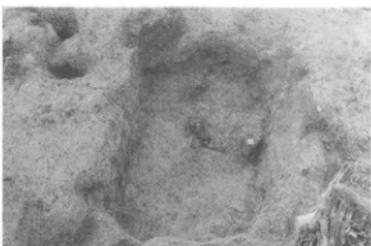


横穴墓玄室内遺物出土状況（北から）

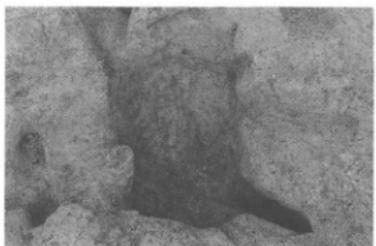
図版14



S X 7 遺物 (384) 出土状況 (南西から)



S X 9 遺物 (385) 出土状況 (南西から)



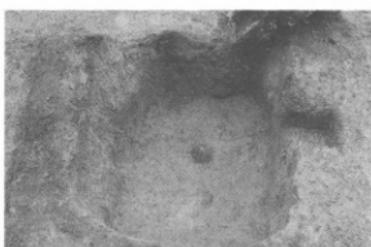
S X 10 (南西から)



S X 13 (北から)



S X 16五輪塔 (390) 出土状況 (北西から)



S X 16 遺物 (391) 出土状況 (北西から)



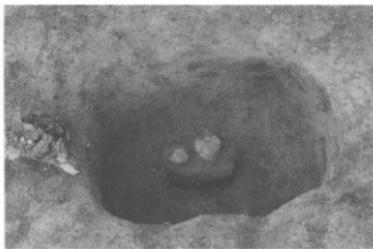
S X 17五輪塔 (387, 388) 出土状況 (南東から)



S X 17 (東から)



S X 18遺物 (392) 出土状況 (南西から)



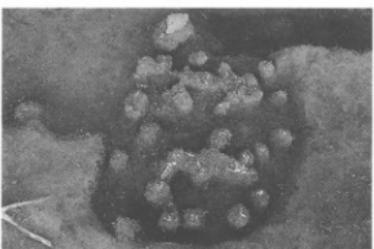
S X 20遺物 (394, 395) 出土状況 (西から)



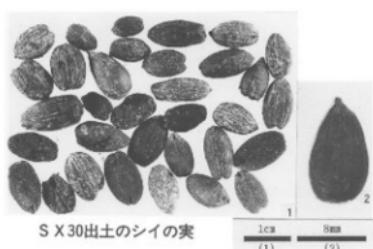
S X 21火葬骨出土状況 (北から)



S X 26火葬骨出土状況 (西から)



S X 30火葬骨出土状況 (南から)



S X 30出土のシイの実

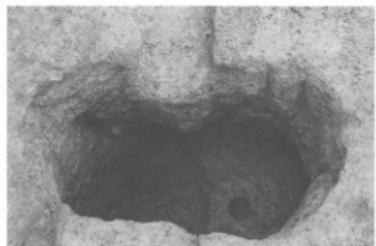


S X 30完掘状況 (南から)

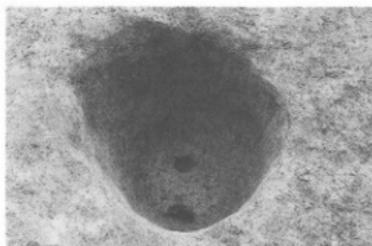


S X 32火葬骨出土状況 (北西から)

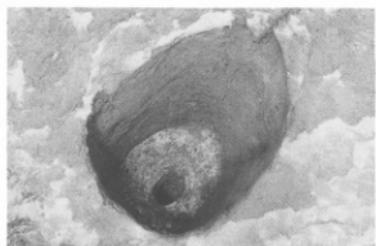
図版16



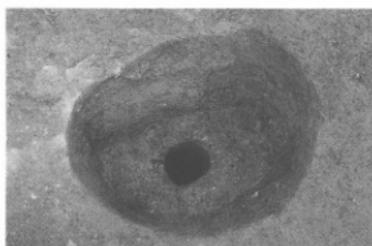
SK 1, 2 (北東から)



SK 3 (北から)



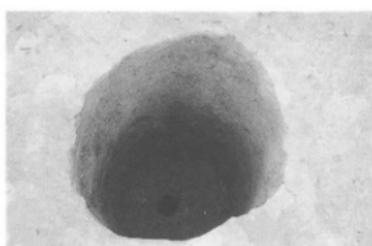
SK 4 (東から)



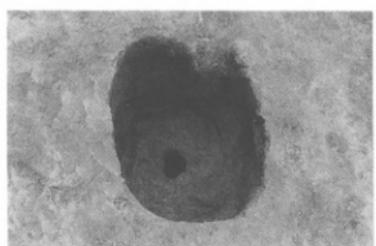
SK 6 (東から)



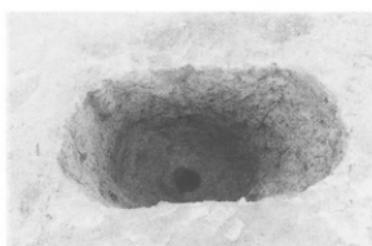
SK 7 (南西から)



SK 8 (東から)



SK 9 (南西から)



SK 10 (北西から)



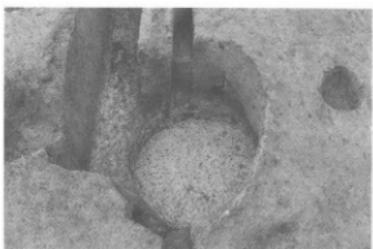
SK 11、SD 5 検出状況（南から）



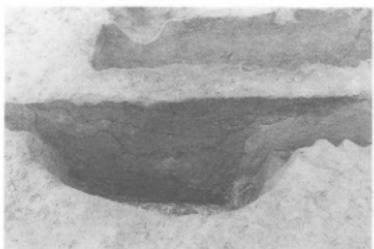
SD 5 完掘状況（南東から）



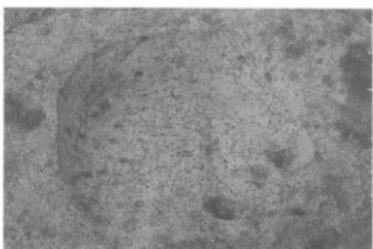
SK 11遺物（398, 399）出土状況（南東から）



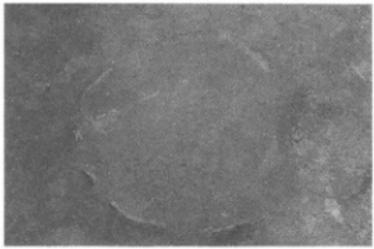
SK 11完掘状況（南東から）



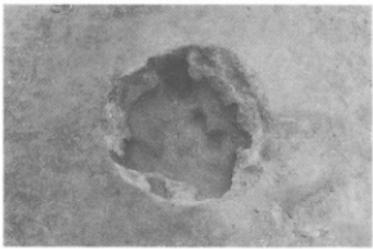
SK 11土層断面（北東から）



SK 12（南東から）



SK 13検出状況（北から）

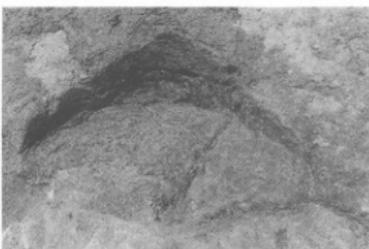


SK 13完掘状況（北から）

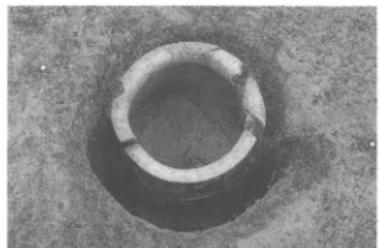
図版18



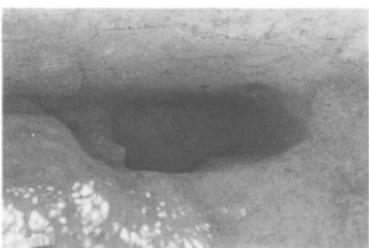
SK 15検出状況（北から）



SK 15完掘状況（北東から）



SK 17甕（407）出土状況（東から）



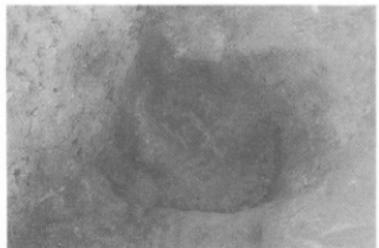
SK 18（北西から）



SK 20遺物（410～426）出土状況（北から）



SK 19（西から）



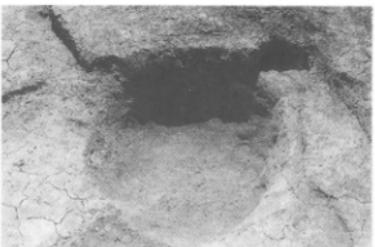
SK 20完掘状況（北から）



SK 20土層断面（北東から）



S K 22 (南東から)



S K 23 (北東から)



S D 1 (南西から)



S D 2 (南東から)



S D 2 土層断面 (北西から)

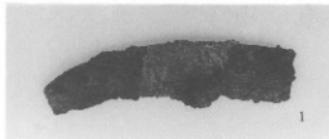


S D 2 五輪塔 (432, 433, 435~437) 出土状況 (東から)



S D 2 五輪塔 (432~437) 出土状況 (北から)

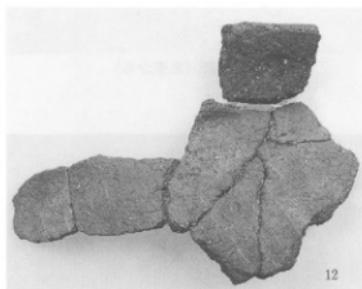
図版20



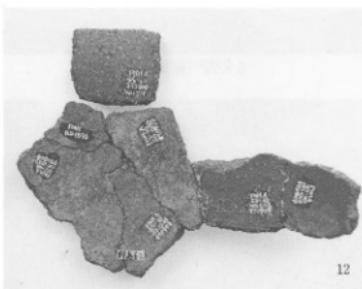
SS 1



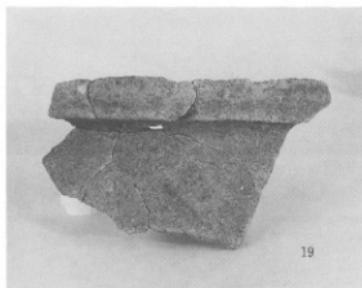
SS 5



SS 7 (外面)



SS 7 (内面)



SS 11



SS 12



SS 12



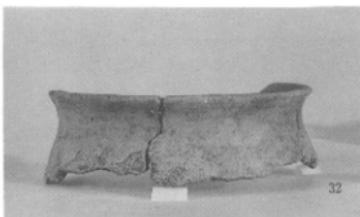
SS 12

図版21



26

S I 3



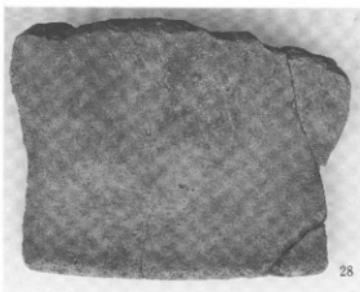
32

S I 3



27

S I 3



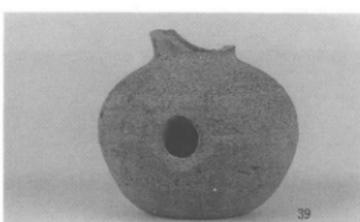
28

S I 3



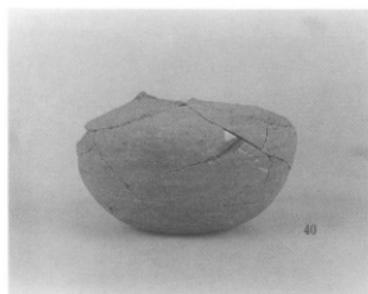
36

S I 4



39

S I 4



40

S I 4



41

S I 4

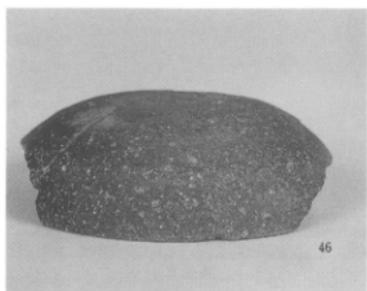
図版22



S I 4



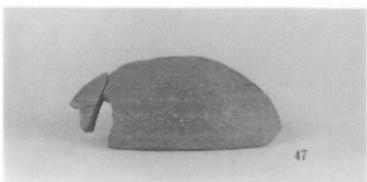
44



S I 8



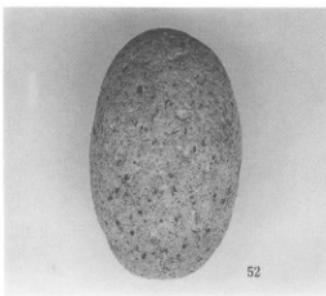
45



S I 7

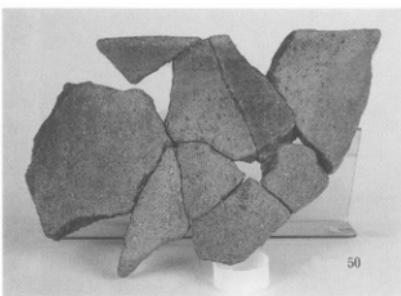


S S 19



52

S I 7 ~ 11上層

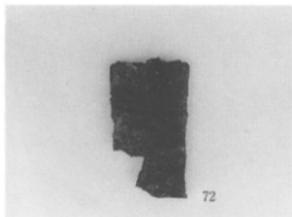


50

S I 7 ~ 11上層



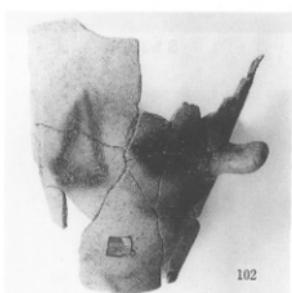
S S 18



S S 18



S I 6



S I 6 上層



S S 20

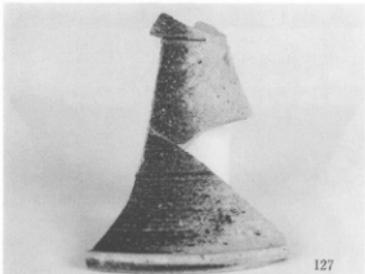


106



124

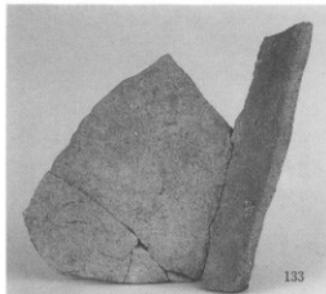
S S 21



127

S S 21 上層

図版24



S S 21上層



S S 21上層



S S 35



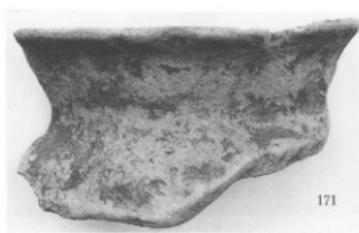
S I 12



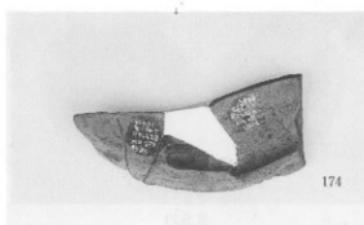
S S 23



S S 25



S S 25



S S 25

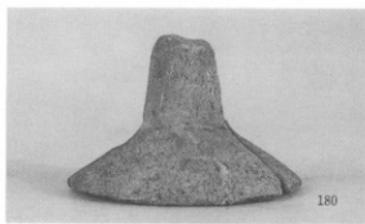
図版25



S S 26



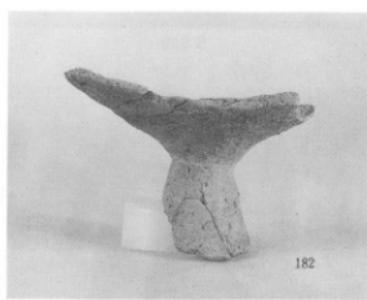
S S 26



S S 26



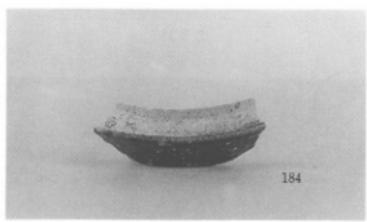
S S 26



S S 26



S S 26

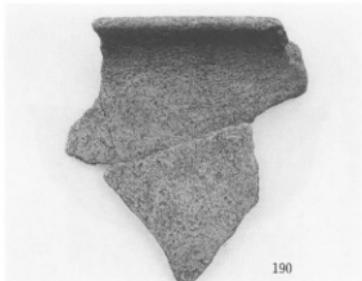


S S 26上層



S S 26上層

図版26



190

S S 26上層



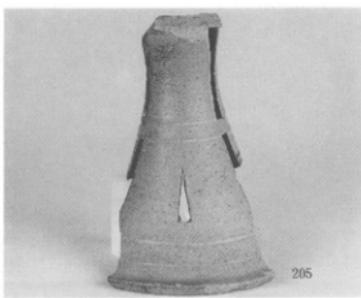
192

S S 26上層



194

S S 27



205

S S 29



233

S S 31



238

S S 31



235

S S 31



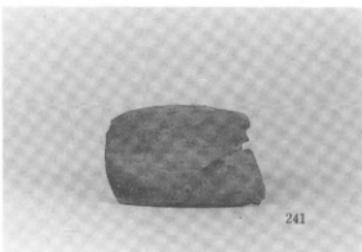
234

S S 31



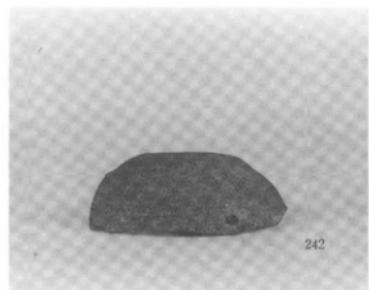
240

SS 31



241

SS 31



242

SS 31



252

SS 31



255

SS 31



256

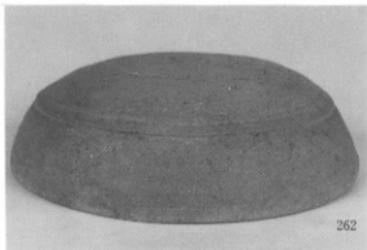
SS 36



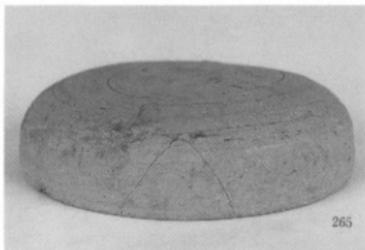
259

SS 37

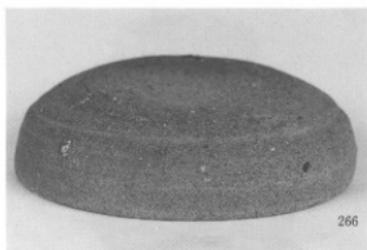
図版28



262



265



266



267



276



268



277



272

早里 14号墳出土遺物



278

早里14号墳



279

早里14号墳



298

早里14、15号墳周辺



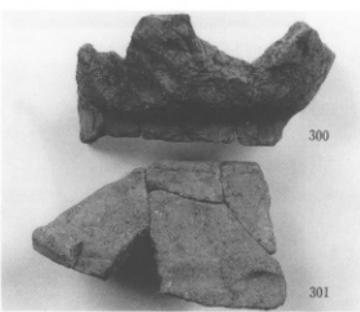
290

早里14、15号墳周辺



304

早里15号墳



300

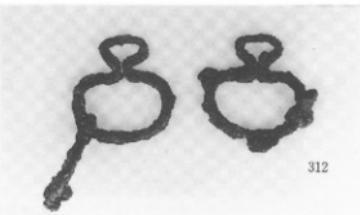
301

早里15号墳



305

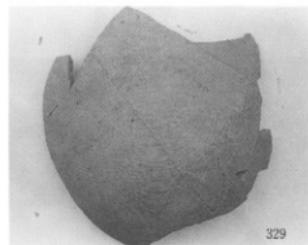
早里15号墳



312

S X 1

図版30

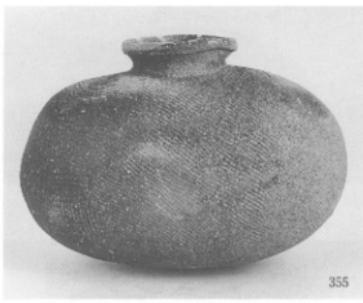


福成早里横穴墓出土遺物

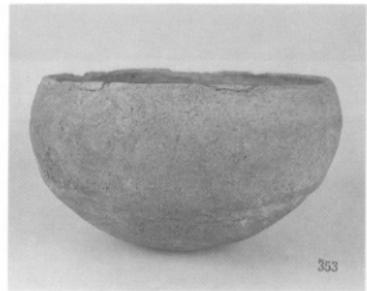
図版31



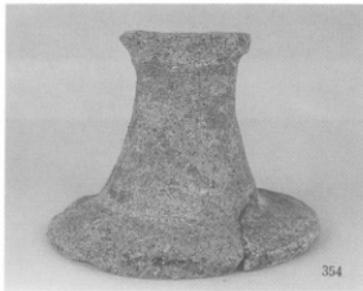
352



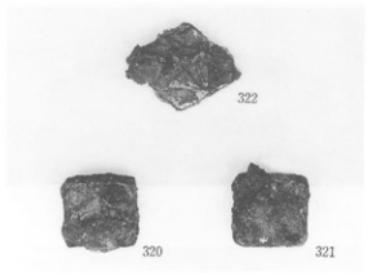
355



353



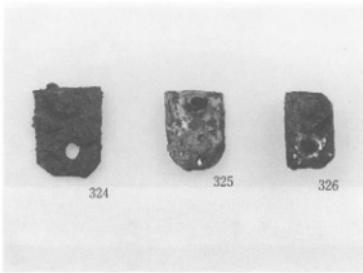
354



320

321

322



324

325

326



327

328

福成早里横穴墓出土遺物

図版32



337



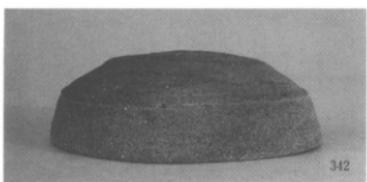
339



340



341



342



344



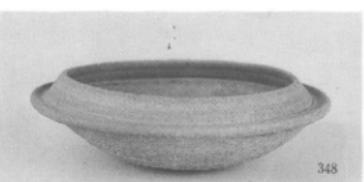
345



346



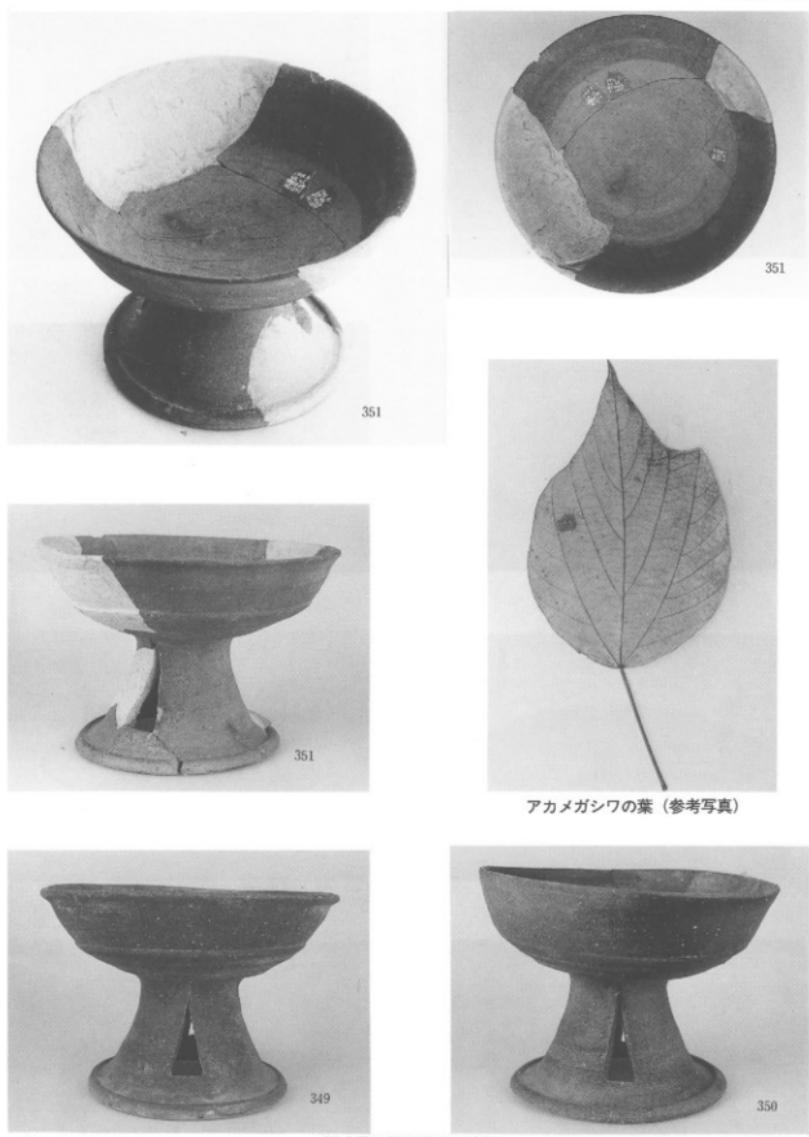
347



348

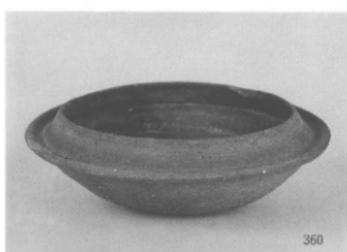
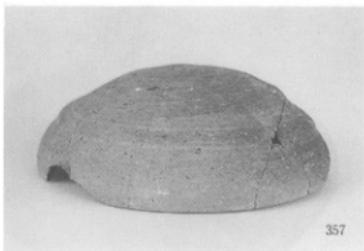
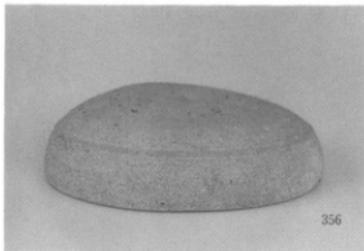
福成早里横穴墓出土遺物

図版33



福成早里横穴墓出土遺物

図版34



福成早里横穴墓出土遺物



364



365



366



368



367



369



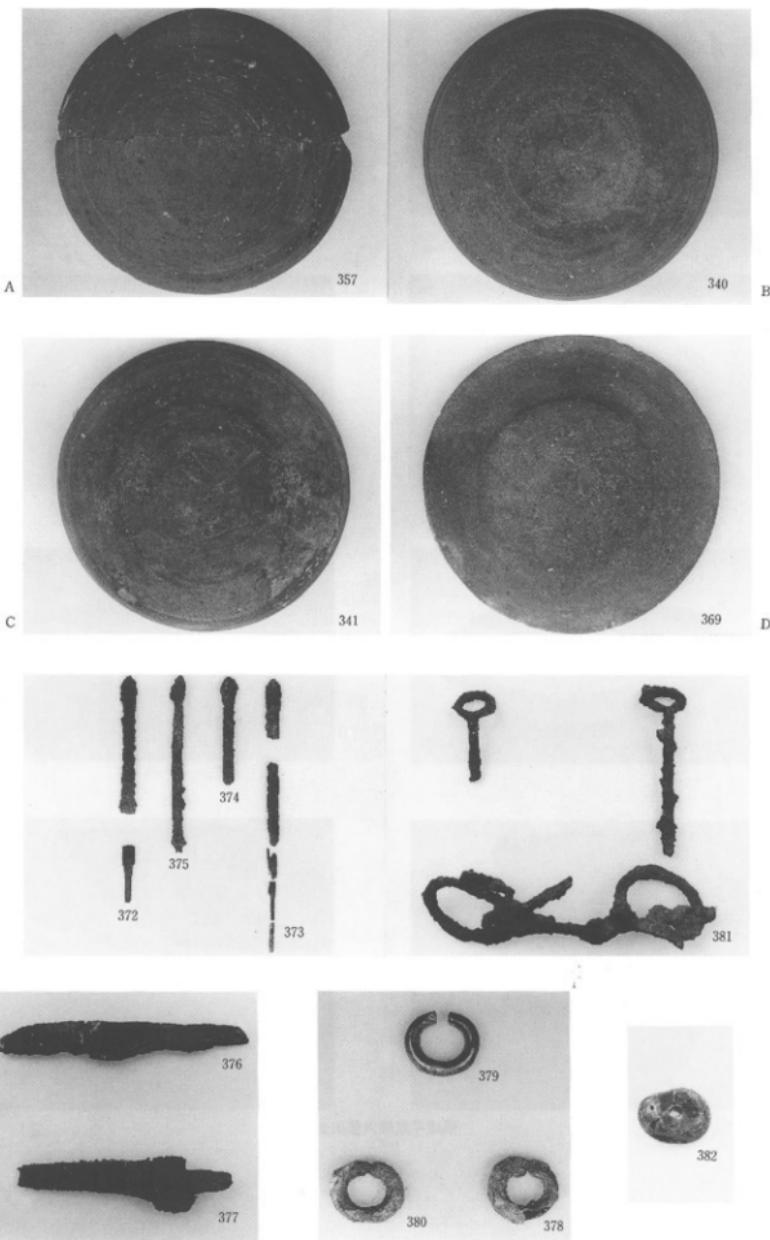
370



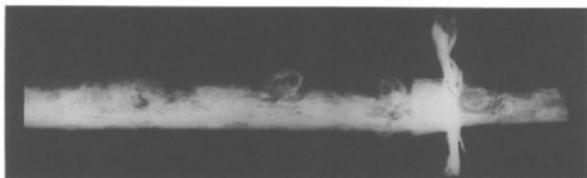
371

福成早里横穴墓出土遺物

図版36



福成早里横穴墓出土遺物



X線写真

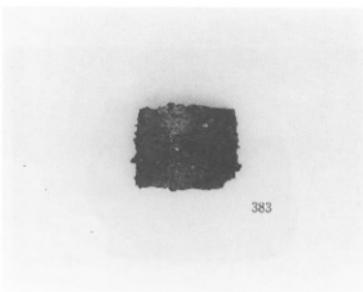
383



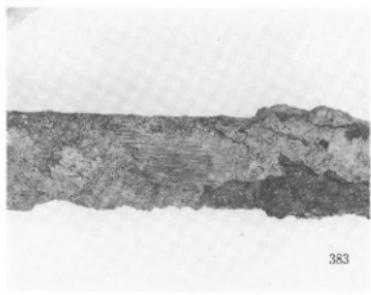
383



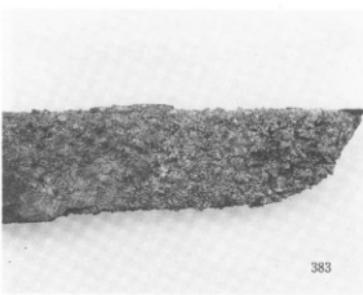
383



383



383



383

福成旱里横穴墓出土遺物

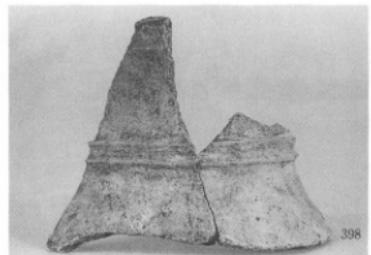
図版38



S X 7



S X 20



SK 11



S X 20



SK 11



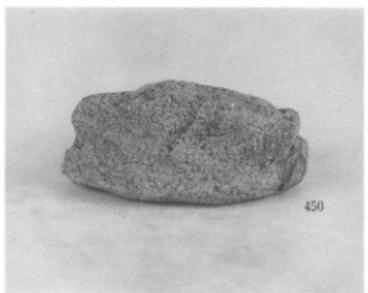
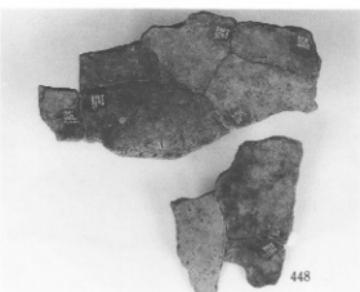
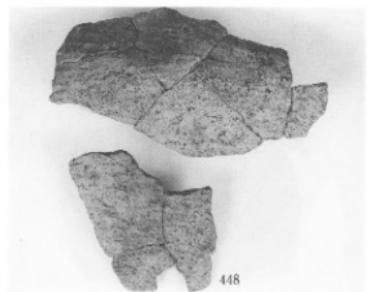
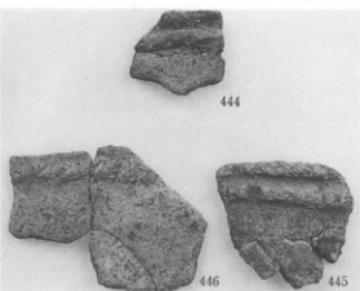
SK 17



SK 20

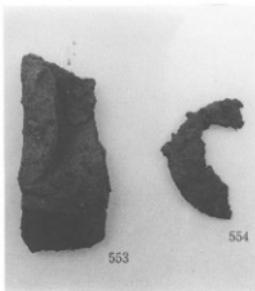
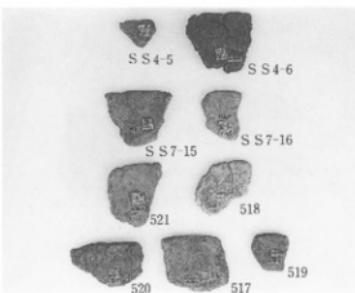
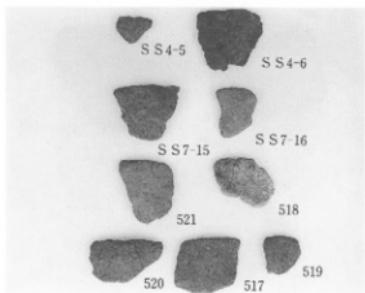


SK 20



遺構外出土遺物

図版40



遺構外出土遺物

鳥取県教育文化財団調査報告書57

一般県道福成戸上米子線地方特定道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡西伯町

**福成早里遺跡**

発行 1998年3月31日

発行者 財團法人 鳥取県教育文化財団

〒680-0011 鳥取市東町1丁目271番地

電話 (0857) 26-8397

印刷 中央印刷株式会社